

第 **11** 位 史上初、無敗の三冠馬

14684 P

前回7位

4位DOWN

## シンボルドルフ

1981年3月13日生 牡 鹿毛

父 パーソロン

母 スイートルナ(父スピードシンボリ)

馬主 シンボリ牧場

調教師 野平祐二(美浦)

生産牧場 シンボリ牧場

通算成績 16戦13勝(うち海外1戦0勝)

総取得賞金 6億8482万4200円

主な勝ち鞍 84・85有馬記念(G I)

85ジャパンC(G I)

85天皇賞(春)(G I)

84菊花賞(G I)

84日本ダービー(G I)

84皐月賞(G I)

85日経賞(G II)

84セントライト記念(G III)

84弥生賞(G III)

馬名の由来 冠名+神聖ローマ帝国の皇帝ルドルフ1世より

競馬新時代を象徴する  
完全無欠の競走馬

中央競馬の競走体系が大きく変わり、重賞レースのグレード制が導入された1984年、シンボルドルフは史上4頭目の三冠馬になった。それもデビュー1戦から菊花賞まで8戦全勝で駆け抜けた。無敗の三冠達成は史上初めであった。競馬新時代を象徴する存在になった。

欠点の見当たらない完全無欠の競走馬だった。1000回の新馬戦から3200回の天皇賞(春)まで距離は万能。85年の日経賞ではスタート直後に先頭に立つと、そのまま2500回を逃げ切った。戦法も自在だった。野平祐二調教師は自信満々に「競馬にも絶対があることをお見せしましょう」と公言して、7つのG Iレースを勝ち取った。それまで日本競馬の合言葉は「シン

ザンを超えろ」だった。史上2頭目の三冠馬で19戦15勝、2着4回という卓越した成績を残した競走馬をロールモデルとした。しかしシンボルドルフの出現以降、合言葉は「ルドルフを超えろ」に変わった。

強すぎるがゆえの不人気という側面もあった。3歳時に出走した84年のジャパンCの単勝売り上げ、同年優勝した有馬記念のファン投票で1位を譲ったのは1つ年上の先輩三冠馬ミスターシービーだった。个性的だった先輩とは計3度対戦し、3度ともシンボルドルフが先着した。

86年3月、米国に渡り、サンタアニタ競馬場のサンルイレイスに挑んだが、レース中に左前脚を痛め、6着に終わった。これを最後に現役を引退した。振り返ってみると、16戦13勝。3度の敗戦はいずれも左回りの競馬場だった。数少ない欠点だったのかもしれない。

## 年代別・性別ランキング

60代以上の  
評価が高い

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ●10代……………21位 | ●60代……………4位 |
| ●20代……………21位 | ●70代……………5位 |
| ●30代……………20位 | ●男性……………11位 |
| ●40代……………16位 | ●女性……………16位 |
| ●50代……………10位 |             |

## Voter's Voice

レースぶりはハラハラさせられることなく、勝つべくして勝つ正に横綱相撲ならぬ横綱競馬(50代・男性)●日本競馬史上初となる無敗でクラシック三冠を達成するという快挙を成し遂げたシンボルドルフ。「皇帝」の異名と共に語り継ぐべき名馬だと思えます(40代・男性)●パドックでのオーラに、走る姿の素晴らしさは「皇帝」の名にふさわしい永遠の名馬だと思う(50代・男性)●憎らしいほど強かった(50代・男性)